

パネルディスカッション

「21世紀の学会発展のビジョンと戦略を考える」のねらい

東京農業大学地域環境科学部 麻生 恵

21世紀を迎えて社会のグローバル化が進み、競争が益々激化するなかで、企業や行政をはじめとする様々な組織は、独自の理念のもとに明確なビジョンを描き、社会に向けてのアピールや社会貢献が求められる時代となってきました。こうした動きへの対応は、大学間などの組織を越えた研究（教育）活動の中心である「学会」においても、これからの発展を目指す上で避けて通れないものとなりつつあります。

これまでも当学会は、レジャー・レクリエーション学の研究方法に関する出版物「レクリエーション学の方法」の編集刊行や研究領域の整理・体系化など、学会でなければできない課題に取り組み、それなりの成果をあげてきました。しかし、近年の学会を取り巻く社会の変化はきわめて大きく、ここでそれらへの対応を真剣に考えざるを得ない状況に至っております。

議論の視点は、①社会の変化や学会へのニーズを認識・把握すること、②それらを踏まえた学会独自の将来構想（ビジョン）を描き共有すること、③学会の特性を踏まえた行動計画を検討すること、の3点に集約されると考えます。また、当学会には多彩な分野の人材が集まっているなど、他の学会とは異なる特長もあり、「総合化」の時代にふさわしい条件を備えているという側面もあります。

「基調講演」で示唆された新しい時代への方向性や学会としての課題をもとに共通の課題を明らかにし、いくつかの分野に絞って、より具体的な取り組みについて議論を深めたいと思います。

このディカッションの成果は今年度理事会内に設けられた「学会活性化委員会」で検討し、活性化のための具体的な事業計画に結びつけていきたいと考えます。

1. レジャー・レクリエーション学会のこれまでの取り組みから

鈴木秀雄（関東学院大学、学会副会長）

社会の動きやニーズの変化を踏まえながら、これまでの学会活動のレビューを行うなかで、問題点と課題を明らかにする。

2. 国際化の動きと国際化への対応から

西野 仁（東海大学）

東アジア地域での近年のレクリエーション需要の高まりや、IFPRA（公園レクリエーション世界大会）などを事例としながら、今後の学会としての国際化への対応、課題を提示する。

3. 産業界・行政等との連携から

山口有次（早稲田大学理工学部）

最近のレジャー・レクリエーション業界の動き、余暇政策の全体像を俯瞰し、その中での学会の果たすべき役割や使命、それら多様な主体との連携の可能性を展望する。